

# プログラム

第1日目 5月31日(木)

開会の辞 8:50 当番世話人：永瀬 浩喜 千葉県がんセンター研究所所長

シンポジウム1 9:00～10:20

## 「分子腫瘍学研究に基づくがん治療法の開発」

司会：柴田 昌彦 福島県立大学 先端癌免疫治療研究講座  
石田 秀行 埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

### S1-1 肝細胞癌における肝星細胞を標的とした新たな治療の開発

○山中 崇弘<sup>1)</sup>、新木健一郎<sup>1)</sup>、萩原 慶<sup>1)</sup>、石井 範洋<sup>1)</sup>、塚越真梨子<sup>1)</sup>、五十嵐隆通<sup>1)</sup>、  
渡辺 亮<sup>1)</sup>、久保 憲生<sup>1)</sup>、播本 憲史<sup>1)</sup>、梅澤 一夫<sup>2)</sup>、桑野 博行<sup>3)</sup>、調 憲<sup>1)</sup>  
1) 群馬大学大学院 肝胆膵外科学 2) 愛知医科大学分子標的医薬探索講座  
3) 群馬大学大学院 総合外科学

### S1-2 小細胞肺癌における RBPJ および MAML3 の生物学的意義解析

○大西 秀哉<sup>1)</sup>、山崎 章生<sup>1)</sup>、川元 真<sup>1)</sup>、大山 康博<sup>1)</sup>、藤村 晶子<sup>1)</sup>、中山 和典<sup>1)</sup>、  
今泉 晃<sup>1,2)</sup>  
1) 九州大学大学院 医学研究院 腫瘍制御学分野 2) 医療法人社団 珠光会

### S1-3 腫瘍促進性マクロファージ制御分子、フロントを標的とした抗がん薬の開発研究

○寺島 裕也<sup>1)</sup>、遠田 悦子<sup>1)</sup>、板倉 明司<sup>2)</sup>、奥村 和弘<sup>2)</sup>、大辻 幹哉<sup>1)</sup>、永瀬 浩喜<sup>2)</sup>、  
松島 綱治<sup>1)</sup>  
1) 東京理科大学 生命医学研究所 炎症・免疫難病制御部門 2) 千葉県がんセンター

### S1-4 分子腫瘍学研究に基づく新規免疫療法の開発と展望

○兼清 信介<sup>1)</sup>、裕 彰一<sup>2)</sup>、恒富 亮一<sup>1)</sup>、桑原 太一<sup>1)</sup>、中島 正夫<sup>1)</sup>、田中 宏典<sup>1)</sup>、  
竹之内寛子<sup>2)</sup>、松井 洋人<sup>1)</sup>、鈴木 伸明<sup>1)</sup>、友近 忍<sup>1)</sup>、徳光 幸生<sup>1)</sup>、飯田 通久<sup>1)</sup>、  
徳久 善弘<sup>1)</sup>、武田 茂<sup>1)</sup>、山本 滋<sup>1)</sup>、吉野 茂文<sup>3)</sup>、上野 富雄<sup>4)</sup>、永野 浩昭<sup>1)</sup>  
1) 山口大学大学院 消化器・腫瘍外科学 2) 山口大学医学部 先端がん治療開発学  
3) 山口大学附属病院 腫瘍センター 4) 川崎医科大学 消化器外科

### S1-5 腫瘍融解アデノウイルス製剤と免疫チェックポイント阻害剤： 新たな複合免疫療法の可能性

○黒田 新士<sup>1)</sup>、金谷 信彦<sup>1)</sup>、垣内 慶彦<sup>1)</sup>、菊地 覚次<sup>1)</sup>、西崎 正彦<sup>1)</sup>、田澤 大<sup>1)</sup>、  
香川 俊輔<sup>1)</sup>、浦田 泰生<sup>2)</sup>、藤原 俊義<sup>1)</sup>  
1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学 2) オンコリスバイオファーマ株式会社

### S1-6 checkpoint abrogation を応用した神経芽腫治療の可能性

○安藤 清宏<sup>1,2)</sup>、中村 洋子<sup>2)</sup>、越永 従道<sup>3)</sup>、槇島 誠<sup>1)</sup>  
1) 日本大学 医学部 生体機能医学系生化学分野 2) 千葉県がんセンター 研究所  
3) 日本大学 医学部 外科学系小児外科学分野

### 総括(特別発言)

國崎 主税  
横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 外科

## 「がん診断法の進歩～早期診断・再発診断・コンパニオン診断～」

司会：土岐 祐一郎 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科  
島田 光生 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 消化器・移植外科

### PD1-1 大腸癌肝転移に対する化学療法後 conversion surgery の適応決定における FDG-PET の意義

○渡辺 亮<sup>1,2)</sup>、新木健一郎<sup>1,2)</sup>、播本 憲史<sup>1,2,3)</sup>、久保 憲生<sup>1,2)</sup>、五十嵐隆通<sup>1,2)</sup>、  
石井 範洋<sup>1,2)</sup>、吉住 朋晴<sup>3)</sup> 有馬 浩太<sup>4)</sup> 山下 洋市<sup>4)</sup> 馬場 秀夫<sup>4)</sup>、樋口 徹也<sup>5)</sup>、  
桑野 博行<sup>2)</sup>、調 憲<sup>1,2)</sup>

1) 群馬大学大学院肝胆膵外科学 2) 群馬大学大学院総合外科学 3) 九州大学大学院消化器・総合外科  
4) 熊本大学消化器外科学 5) 群馬大学大学院 放射線診断核医学

### PD1-2 末梢血 Tr1 比率は IPMN の悪性度評価に有用である

○岩橋 衆一、島田 光生、森根 裕二、居村 暁、池本 哲也、齋藤 裕、寺奥 大貴  
徳島大学 外科学

### PD1-3 血清中の元素含有量を用いた新たながんスクリーニング法開発に関する研究 ～メタロバランス～

○三上 春夫<sup>1)</sup>、岡本 直幸<sup>2,3)</sup>、宮城 洋平<sup>3)</sup>、中村 洋子<sup>1)</sup>、永瀬 浩喜<sup>1)</sup>

1) 千葉県がんセンター研究所 2) 株式会社レナテック 3) 神奈川県立がんセンター臨床研究所

### PD1-4 血中微量二本鎖核酸分子を標的とした PI ポリアミドを用いた がん遺伝子変異同定法の開発と臨床応用の検討

○北川 善康<sup>1,2)</sup>、奥村 和弘<sup>2)</sup>、鈴木 拓人<sup>1)</sup>、渡部 隆義<sup>2)</sup>、早田 浩明<sup>3)</sup>、傳田 忠道<sup>4)</sup>、  
永瀬 浩喜<sup>2)</sup>、山口 武人<sup>4)</sup>

1) 千葉県がんセンター・内視鏡科 2) 千葉県がんセンター研究所・腫瘍ゲノム研究室  
3) 千葉県がんセンター・消化器外科 4) 千葉県がんセンター・消化器内科

### PD1-5 直腸癌に対する術前化学放射線療法の治療効果予測因子としての シクロオキシゲナーゼ-2(COX-2) の有用性

○宮内 英聡、加野 将之、栃木 透、丸山 哲郎、今西 俊介、加賀谷暁子、大平 学、  
松原 久裕

千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科

### PD1-6 癌患者における T 細胞の刺激応答性の評価

○山下 公大、田中 智子、杉田 裕、福岡 英志、有本 聡、長谷川 寛、山本 将士、  
金治 新悟、松田 佳子、押切 太郎、松田 武、中村 哲、角 泰雄、鈴木 知志、  
掛地 吉弘

神戸大学 医学部 食道胃腸外科

### 総括(特別発言)

西山 正彦

群馬大学大学院医学系研究科 病態腫瘍薬理学分野

ランチセミナー 1 12:00 ~ 13:00

共催：大鵬薬品工業株式会社

司会：中村 雅史 九州大学大学院医学研究院 臨床腫瘍外科

## 「胆膵癌における conversion surgery ～超進行胆膵癌の予後向上を目指して～」

大塚 将之  
千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学

総会 13:10 ~ 13:30

特別講演 13:50 ~ 14:35

司会：金田 篤志 千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学

## 「iPS 細胞技術によるがん細胞の理解と制御」

山田 泰広  
東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター 先端病態モデル研究分野

アフタヌーンセミナー 15:20 ~ 16:00

共催：中外製薬株式会社

司会：松原 久裕 千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科

## 「大腸癌に対する最新の治療と研究の最前線」

馬場 秀夫  
熊本大学大学院 生命科学研究部消化器外科

イブニングセミナー 16:50 ~ 17:50

共催：ヤクルト株式会社

司会：掛地 吉弘 神戸大学大学院医学研究科外科学講座 食道胃腸外科学分野

## 「マイクロ RNA の臨床応用を目指して」

森 正樹  
大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学

P1-1 大腸癌の病態：CT colonography の ileocecal valve function の評価

- 東海林久紀<sup>1)</sup>、龍城 宏典<sup>1)</sup>、茂木 政彦<sup>1)</sup>、大澤 清孝<sup>1)</sup>、生越 喬二<sup>2)</sup>  
1) 日高病院 外科 2) 日高病院 臨床腫瘍科

P1-2 A型胃炎(自己免疫性胃炎)を背景とした胃神経内分泌腫瘍(NET)の1例と自験13例の免疫組織化学的検討

- 星 大輔<sup>1)</sup>、高橋 寿枝<sup>2)</sup>、布袋屋 修<sup>2)</sup>、井下 尚子<sup>1)</sup>  
1) 虎の門病院 病理診断科 2) 虎の門病院 消化器内科

P1-3 PTPRKによるがん幹細胞マーカーCD133の脱リン酸化を介した大腸がん進展の抑制

- 森 祐輔<sup>1)</sup>、早田 浩明<sup>2)</sup>、滝口 伸浩<sup>2)</sup>、鍋谷 圭宏<sup>2)</sup>、竹内 彩夏<sup>1)</sup>、巽 康年<sup>1)</sup>、尾崎 俊文<sup>3)</sup>、下里 修<sup>1)</sup>  
1) 千葉県がんセンター 研究所 腫瘍ゲノム研究室 2) 千葉県がんセンター 医療局 食道・胃腸外科  
3) 千葉県がんセンター 研究所

P1-4 85歳以上の胃癌に対する胃切除症例の臨床病理学的特徴と成績

- 滝口 伸浩、鍋谷 圭宏、池田 篤、早田 浩明、外岡 亨、星野 敢、岩立 陽祐、佐藤 菜実  
千葉県がんセンター 食道胃腸外科

P1-5 マウス胃細胞の3次元培養を用いた胃発がん過程の再現

- 丸 喜明、筆宝 義隆  
千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部

P2-1 膵癌におけるアルキル化ピロール・イミダゾールポリアミドの薬理効果と感受性関連遺伝子の探索

- 辻本 彰子<sup>1,2,3)</sup>、高取 敦志<sup>3)</sup>、松尾仁以奈<sup>4)</sup>、Krishnamurthy Sakthisri<sup>3)</sup>、Lin Jason<sup>4)</sup>、篠崎 喜脩<sup>4)</sup>、渡部 隆義<sup>4)</sup>、永瀬 浩喜<sup>2,4)</sup>  
1) 千葉県がんセンター 消化器内科 2) 千葉大学大学院 医学薬学府 分子腫瘍生物学  
3) 千葉県がんセンター研究所 がん先進治療開発研究室 4) 同 がん遺伝創薬研究室

P2-2 小児骨肉腫における肺転移発生関連 genomic marker の同定

- 巽 康年<sup>1)</sup>、米本 司<sup>2)</sup>、鴨田 博人<sup>2)</sup>、塚西 敏則<sup>2)</sup>、石井 猛<sup>2)</sup>、大平 美紀<sup>3)</sup>、永瀬 浩喜<sup>4)</sup>、岩田慎太郎<sup>1,2,5)</sup>  
1) 千葉県がんセンター研究所腫瘍ゲノム研究室 2) 千葉県がんセンター整形外科  
3) 埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 4) 千葉県がんセンター研究所がん遺伝創薬研究室  
5) 国立がん研究センター骨軟部腫瘍科

P2-3 EUS-FNA 検体を用い3次元培養に成功した膵腺房細胞癌の一例

- 喜多 絵美里<sup>1,2)</sup>、丸 喜明<sup>2)</sup>、筆宝 義隆<sup>2)</sup>、山口 武人<sup>1)</sup>、高山 亘<sup>3)</sup>、伊丹真紀子<sup>4)</sup>  
1) 千葉県がんセンター 消化器内科 2) 千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部  
3) 千葉県がんセンター 肝胆膵外科 4) 千葉県がんセンター 臨床病理部

## P2-4 肺癌の神経内分泌性格を制御する分子機構の解析

○末永 雄介<sup>1)</sup>、新行内雅斗<sup>2)</sup>、兼松宗太郎<sup>3)</sup>、飯笹 俊彦<sup>2)</sup>、加藤 護<sup>4)</sup>、横井 左奈<sup>1,3)</sup>

1) 千葉県がんセンター 研究所 がんゲノムセンター 2) 千葉県がんセンター 呼吸器科

3) 千葉県がんセンター 遺伝子診断部 4) 国がんセンター 研究所 バイオインフォマティクス部門

## P2-5 非小細胞肺癌 (NSCLC) の oligo-recurrence に対して肝切除を行った 7 例の検討

○石毛 文隆<sup>1)</sup>、高山 亘<sup>1)</sup>、千葉 聡<sup>1)</sup>、星野 敢<sup>2)</sup>、柳橋 浩男<sup>1)</sup>、有光 秀仁<sup>1)</sup>、  
岩立 陽祐<sup>1)</sup>

1) 千葉県がんセンター 肝胆膵外科 2) 千葉県がんセンター 食道胃腸外科

## ポスター3 16:10 ~ 16:40

司会：藤原 健太郎 放射線医学総合研究所分子イメージング診断治療研究部

### P3-1 免疫チェックポイント阻害剤が奏効している 2 例

○杉山 保幸

岐阜市民病院 外科

### P3-2 免疫チェックポイント分子を標的とした PI ポリアミド -CBI 修飾化合物の がん細胞への影響

○篠原 真優<sup>1,2)</sup>、高取 敦志<sup>3)</sup>、越川 信子<sup>2)</sup>、渡部 隆義<sup>2)</sup>、篠崎 喜脩<sup>2)</sup>、  
ジェイソン・リン<sup>2)</sup>、永瀬 浩喜<sup>2)</sup>

1) 千葉大学大学院・医学薬学府・医科学専攻 2) 千葉県がんセンター・研究所・がん遺伝創薬研究室

3) 千葉県がんセンター・研究所・がん先進治療開発研究室

### P3-3 大腸癌手術症例における術前末梢血好中球リンパ球比 (NLR) の意義

○佐川まさの<sup>1)</sup>、横溝 肇<sup>1)</sup>、吉松 和彦<sup>1)</sup>、矢野 有紀<sup>1)</sup>、岡山 幸代<sup>1)</sup>、佐竹 昌也<sup>1)</sup>、  
山田 泰史<sup>1)</sup>、碓井 健文<sup>1)</sup>、山口健太郎<sup>1)</sup>、島川 武<sup>1)</sup>、塩澤 俊一<sup>1)</sup>、勝部 隆男<sup>1)</sup>、  
加藤 博之<sup>2)</sup>、成高 義彦<sup>1)</sup>

1) 東京女子医科大学東医療センター外科 2) 東京女子医科大学東医療センター検査科

### P3-4 食道扁平上皮癌における組織中 PD-L1 発現と血清 PD-L1 濃度相関の検討

○白石 匡、豊住 武司、坂田 治人、加野 将之、村上健太郎、大塚 亮太、関野 伸史、  
岡田晃一郎、松原 久裕

千葉大学大学院 医学研究院 先端応用外科学

### P3-5 食道癌術後のまれな血行性転移の 2 例： 陰茎転移・腎転移をそれぞれきたした症例について

○岩立 陽祐、星野 敢、滝口 伸浩、池田 篤、早田 浩明、外岡 亨、  
佐藤 菜実、鍋谷 圭宏

千葉県がんセンター 食道・胃腸外科

### P3-6 癌関連線維芽細胞が示す癌促進能と 筋線維芽細胞様の特性を維持するエピゲノム変化の探索

○目澤 義弘、樋野 興夫、折茂 彰

順天堂大学 医学研究科 分子病理病態学

**P4-1 超拡大内視鏡 Endocytoscopy system による上部消化管粘膜の観察**

- 熊谷 洋一<sup>1)</sup>、田久保海誉<sup>2)</sup>、川田 研郎<sup>3)</sup>、村松 俊輔<sup>1)</sup>、山本 梓<sup>1)</sup>、牟田 優<sup>1)</sup>、伊藤 徹哉<sup>1)</sup>、近 範泰<sup>1)</sup>、幡野 哲<sup>1)</sup>、天野 邦彦<sup>1)</sup>、石畝 亨<sup>1)</sup>、福地 稔<sup>1)</sup>、石橋敬一郎<sup>1)</sup>、持木 彫人<sup>1)</sup>、石田 秀行<sup>1)</sup>
- 1) 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科 2) 東京都健康長寿医療センター  
3) 東京医科歯科大学 食道外科

**P4-2 副甲状腺ホルモン PTH の腫瘍増殖抑制効果**

- 奥村 和弘<sup>1,2)</sup>、齋藤 慈<sup>1)</sup>、磯貝恵理子<sup>1)</sup>、若林 雄一<sup>1)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター研究所 実験動物研究室 2) 千葉県がんセンター研究所 腫瘍ゲノム研究室

**P4-3 がん抑制遺伝子 p19Arf に存在する非同義置換多型の機能解析**

- 齋藤 慈<sup>1,2)</sup>、奥村 和弘<sup>1)</sup>、磯貝恵理子<sup>1)</sup>、若林 雄一<sup>1)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター研究所・実験動物研究室 2) 千葉大学大学院・医学薬学府・分子腫瘍生物学

**P4-4 食道癌治療効果予測，予後予測のための Radioepigenomics 理論の創出**

- 星野 敢<sup>1)</sup>、横田 元<sup>2)</sup>、石毛 文隆<sup>1)</sup>、岩立 陽祐<sup>1)</sup>、滝口 伸浩<sup>1)</sup>、高山 亘<sup>1)</sup>、池田 篤<sup>1)</sup>、早田 浩明<sup>1)</sup>、千葉 聡<sup>1)</sup>、外岡 亨<sup>1)</sup>、柳橋 浩男<sup>1)</sup>、佐藤 菜実<sup>1)</sup>、鍋谷 圭宏<sup>1)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター消化器外科  
2) David Geffen School of Medicine at UCLA/ 千葉大学大学院医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学

**P4-5 術前補助化学療法を施行した食道癌における ADC を用いた Volumetric ヒストグラム解析**

- 平田 篤史、早野 康一、大平 学、今西 俊介、藤城 健、栃木 透、高橋有未子、渡邊 裕樹、澤田 尚人、水内 喬、村上健太郎、松原 久裕
- 千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科

**P5-1 放射性標識遺伝子標的アルキル化剤による in vivo イメージング法の開発**

- 渡部 隆義<sup>1)</sup>、篠崎 脩直<sup>1)</sup>、井上 貴博<sup>1,2)</sup>、越川 信子<sup>1)</sup>、高取 敦志<sup>1)</sup>、永瀬 浩喜<sup>1,2)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター研究所・がん遺伝創薬研究室 2) 千葉大学大学院・医学薬学府・分子腫瘍生物学

**P5-2 Pyrrole-Imidazole Polyamide の一次構造が腫瘍集積性に与える影響**

- 下里 修<sup>1)</sup>、井上 貴博<sup>2)</sup>、篠崎 喜脩<sup>2)</sup>、渡部 隆義<sup>2)</sup>、森 祐輔<sup>1)</sup>、永瀬 浩喜<sup>2)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター 研究所 腫瘍ゲノム研究室  
2) 千葉県がんセンター 研究所 がん遺伝創薬研究室

**P5-3 ゲノム解析によるピロールイミダゾールポリアミドで生化学的機能および臨床的副作用の予測**

- リン・ジェイソン<sup>1)</sup>、平岡 桐子<sup>1)</sup>、養田 裕行<sup>2)</sup>、クリシュナムーティ・サクテイシリ<sup>2)</sup>、篠崎 喜脩<sup>1)</sup>、渡部 隆義<sup>1)</sup>、高取 敦志<sup>2)</sup>、越川 信子<sup>1)</sup>、ホートン・ポール<sup>3)</sup>、永瀬 浩喜<sup>1)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター・研究所・がん遺伝創薬研究室  
2) 千葉県がんセンター・研究所・がん先進治療開発研究室  
3) 産業技術総合研究所・人工知能研究センター



**P5-4 PI ポリアミド修飾化合物によるミトコンドリア標的遺伝子配列のコピー数減少の検討**

○安井 七海<sup>1,2)</sup>、越川 信子<sup>1)</sup>、渡部 隆義<sup>1)</sup>、篠崎 喜脩<sup>1)</sup>、高取 敦志<sup>1)</sup>、  
Jason Lin<sup>1)</sup>、永瀬 浩喜<sup>1)</sup>

1) 千葉県がんセンター研究所 2) 千葉大学大学院 医学薬学府 医科学専攻

**P5-5 蛍光分子イメージングにより実現する革新的がん可視化画像診断技術の開発**

○徐 岩、石塚 匠、趙 珮妍

宮崎大学 医学部 機能制御学講座

**ポスター6 14:40 ~ 15:10**

司会：上久保 靖彦 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

**P6-1 高悪性度子宮体癌細胞に対する EZH2 特異的阻害剤の抗腫瘍効果とその分子機構**

○董 培新、渡利 英道

北海道大学医学研究院 産婦人科

**P6-2 血性乳頭分泌を認めた女性化乳房の一例**

○窪田 仁美<sup>1,2)</sup>、門傳 香織<sup>1)</sup>、鈴木 祐奈<sup>1)</sup>、武井 咲月<sup>1)</sup>、安達 慶太<sup>1)</sup>、鈴木 周平<sup>1)</sup>、  
原 由起子<sup>1,2)</sup>、藤崎 滋<sup>2)</sup>、櫻井 健一<sup>1,2)</sup>

1) 日本大学医学部板橋病院乳腺内分泌外科 2) 藤崎病院 外科

**P6-3 整容性を意識した乳頭乳輪温存胸筋温存乳房切除術の1症例**

○安達 慶太、鈴木 周平、鈴木 佑奈、武井 咲月、窪田 仁美、原 由起子、櫻井 健一

日本大学医学部 外科学系 乳腺内分泌外科学分野

**P6-4 神経芽腫における ALK 遺伝子異常を標的とした**

**アルキル化ピロール・イミダゾールポリアミド化合物の開発**

○太田 陽子<sup>1,3)</sup>、養田 裕行<sup>2)</sup>、井上 貴博<sup>1,3)</sup>、渡部 隆義<sup>1)</sup>、篠崎 喜脩<sup>1)</sup>、高取 敦志<sup>2)</sup>、  
永瀬 浩喜<sup>1,3)</sup>

1) 千葉県がんセンター研究所 がん遺伝創薬研究室

2) 千葉県がんセンター研究所 がん先進治療開発研究室 3) 千葉大学大学院医学薬学府

**P6-5 Targeting mutant PIK3CA dependent cervical cancer by  
Pyrrole Imidazole polyamide seco-CBI conjugate**

○Sakthisri Krishnamurthy<sup>1,3)</sup>、Atsushi Takatori<sup>2)</sup>、Hiroyuki Yoda<sup>2)</sup>、Kiriko Hiraoka<sup>1,3)</sup>、  
Takahiro Inoue<sup>1,3)</sup>、Yoshinao Shinozaki<sup>2)</sup>、Takayoshi Watanabe<sup>1)</sup>、Nobuko Koshikawa<sup>1)</sup>、  
Hiroki Nagase<sup>1)</sup>

1) Div. Cancer Genetics, Chiba Cancer Ctr. Res. Inst.

2) Div. Innov. Cancer Therap., Chiba Cancer Ctr. Res. Inst.

3) Grad. Sch. Med. & Pharm. Sci., Univ. Chiba

18:00 ~ 20:00

**全員懇親会・表彰式**  
会場：「ロイヤル2」

# プログラム

第2日目 6月1日 (金)

シンポジウム2 8:30~9:50

## 「がんゲノム医療の現状と未来」

司会：三森 功士 九州大学病院別府病院 外科  
池田 徳彦 東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野

### S2-1 ゲノムコピー数増加により活性化される3つのマイクロRNAの発現は肺扁平上皮癌の予後不良と関わる

- 横井左奈<sup>1,2)</sup>、夏 恩迪<sup>1)</sup>、兼松宗太郎<sup>2)</sup>、末永 雄介<sup>1)</sup>、飯笹 俊彦<sup>3)</sup>、守屋 康充<sup>1)</sup>  
1) 千葉県がんセンター 研究所 がんゲノムセンター 2) 千葉県がんセンター 遺伝子診断部  
3) 千葉県がんセンター 呼吸器科

### S2-2 GISTにおけるFBXW7と腫瘍進展の相関の検討

- 古閑 悠輝、岩槻 政晃、山下 晃平、清住 雄希、澤山 浩、日吉 幸晴、馬場 祥史、  
宮本 裕士、吉田 直矢、馬場 秀夫  
熊本大学大学院消化器外科学

### S2-3 陥凹型早期大腸癌の分子生物学的特徴

- 神山 勇太<sup>1,2)</sup>、増田 隆明<sup>1)</sup>、小川 悠史<sup>2)</sup>、工藤 孝毅<sup>2)</sup>、江口 英利<sup>1)</sup>、工藤 進英<sup>2)</sup>、  
三森 功士<sup>1)</sup>  
1) 九州大学病院別府病院外科 2) 昭和大学横浜市北部病院消化器センター

### S2-4 直腸癌術前化学放射線療法の腫瘍免疫因子の発現動態の解析

- 福岡 英志、山下 公大、中川 暁雄、長谷川 寛、松田 武、山本 将士、金治 新悟、  
松田 佳子、押切 太郎、中村 哲、角 泰雄、鈴木 知志、掛地 吉弘  
神戸大学 医学部 食道胃腸外科

### S2-5 肺癌と大腸癌における病因性mtDNA ND 遺伝子変異と遠隔転移との関連

- 竹永 啓三<sup>1,3)</sup>、越川 信子<sup>1)</sup>、秋元 美穂<sup>2,3)</sup>、林 純一<sup>4)</sup>、永瀬 浩喜<sup>1)</sup>  
1) 千葉県がんセンター・研・がん遺伝創薬 2) 帝京大・医・生化学  
3) 島根大・医・生命科学 4) 筑波大

### S2-6 食道扁平上皮癌におけるHSPA6発現の臨床病理学的検討

- 関野 伸史、加野 将之、坂田 治人、村上健太郎、豊住 武司、大塚 亮太、  
横山 将也、白石 匡、岡田晃一郎、松原 久裕  
千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学

### S2-7 HER2陰性再発・進行胃癌に対する1st line SOX療法の現状

- 佐藤 涉<sup>1)</sup>、國崎 主税<sup>1)</sup>、高橋 弘毅<sup>1)</sup>、末松 秀明<sup>1)</sup>、田中 優作<sup>1)</sup>、宮本 洋<sup>1)</sup>、  
小坂 隆司<sup>1)</sup>、湯川 寛夫<sup>1)</sup>、田中 邦哉<sup>1)</sup>、佐藤 圭<sup>2)</sup>、秋山 浩利<sup>2)</sup>、遠藤 格<sup>2)</sup>  
1) 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科  
2) 横浜市立大学附属病院 消化器・腫瘍外科

総括(特別発言) 竹之下 誠一  
福島県立医科大学 理事長



## 「生命体ゲノム・エピゲノム構造普遍性への容喙そして俯瞰」

司会：鍋谷 圭宏 千葉県がんセンター 消化器外科  
調 憲 群馬大学医学研究科 病態腫瘍制御学講座肝胆膵外科学分野

### W1-1 がん遺伝子増幅を標的とした

#### アルキル化ピロール・イミダゾール・ポリアミド化合物による治療戦略

- 高取 敦志<sup>1)</sup>、養田 裕行<sup>1)</sup>、平岡 桐子<sup>2)</sup>、井上 貴博<sup>2,3)</sup>、  
クリシュナムーティ サクティシリ<sup>1,2,3)</sup>、篠崎 喜脩<sup>2)</sup>、渡部 隆義<sup>2)</sup>、永瀬 浩喜<sup>2,3)</sup>
- 1) 千葉県がんセンター 研究所 がん先進治療開発研究室
  - 2) 千葉県がんセンター 研究所 がん遺伝創薬研究室
  - 3) 千葉大学大学院 医学薬学府

### W1-2 小細胞肺がんに対する放射免疫療法と治療後の病理学的変化

- 藤原健太郎、辻 厚至、東 達也  
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所分子イメージング診断治療研究部

### W1-3 癌エピゲノム異常の制御を目指した塩基配列選択的 DNA 結合小分子の開発

- 篠原 憲一<sup>1)</sup>、依田夏美<sup>1)</sup>、覃 睿<sup>2)</sup>、福世 真樹<sup>1)</sup>、岡部 篤史<sup>1)</sup>、  
Alagarwamy Kokiladevi<sup>1)</sup>、仲野 駿一<sup>2)</sup>、鈴木 孝禎<sup>3)</sup>、根本 哲宏<sup>2)</sup>、金田 篤志<sup>1)</sup>
- 1) 千葉大学大学院 医学研究院 分子腫瘍学
  - 2) 千葉大学大学院 薬学研究院 薬化学
  - 3) 京都府立医科大学大学院 医学研究科 医薬品化学

### W1-4 PDC を用いた新規癌腫アキシス抽出法の確立

- 上久保靖彦  
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

### W1-5 遺伝子発現の特異的な制御を可能にする PDC の開発

- 板東 俊和<sup>1)</sup>、杉山 弘<sup>1,2)</sup>
- 1) 京都大学 大学院理学研究科 化学専攻
  - 2) 京都大学 物質 - 細胞統合システム拠点

### W1-6 テント上上衣腫における C11orf95-RELA 融合遺伝子の DNA 結合部位の同定

- Tatsuya Ozawa<sup>1)</sup>、Shuzo Kaneko<sup>2)</sup>、Frank Szulzewsky<sup>3)</sup>、Mutsumi Takadera<sup>1)</sup>、Richard J. Gilbertson<sup>4)</sup>、Eric C. Holland<sup>3)</sup>、Ryuji Hamamoto<sup>2)</sup> and Koichi Ichimura<sup>1)</sup>
- 1) Division of Brain Tumor Translational Research, National Cancer Center Research Institute, Japan
  - 2) Division of Molecular Modification and Cancer Biology, National Cancer Center Research Institute, Japan
  - 3) Division of Human Biology and Seattle Tumor Translational Research (STTR), Fred Hutchinson Cancer Research Center, Department of Neurosurgery and Alvord Brain Tumor Center, University of Washington, USA
  - 4) Cancer Research UK Cambridge Institute, University of Cambridge, Cambridge, UK

## 「浸潤・転移の分子機構とその制御」

司会：傳田 忠道 千葉県がんセンター 消化器内科  
大辻 英吾 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器外科学

### W2-1 胃癌における PLOD2 発現とコラーゲン増生を介した腹膜播種への関与

○清住 雄希、岩槻 政晃、山下 晃平、古閑 雄輝、澤山 浩、日吉 幸晴、石本 崇胤、  
馬場 祥史、宮本 裕士、吉田 直矢、馬場 秀夫  
熊本大学大学院 消化器外科学

### W2-2 大腸癌における microRNA-449a 発現の意義

○柏原 秀也、島田 光生、吉川 幸造、東島 潤、徳永 卓哉、西 正暁、高須 千絵、  
石川 大地  
徳島大学消化器・移植外科

### W2-3 CT26 大腸癌細胞由来エクソソームは腹膜播種を抑制する

○徳田 彩、三宅 亨、生田 大二、清水 智治、園田 寛道、植木 智之、  
飯田 洋也、貝田佐知子、山口 剛、谷 眞至  
滋賀医科大学 外科学講座 消化器外科

### W2-4 大腸癌浸潤先進部における tumor budding (BD) 検索の意義

○吉松 和彦<sup>1,2)</sup>、佐野 恵美<sup>1,2)</sup>、伊藤 嘉智<sup>1)</sup>、今泉 理枝<sup>1)</sup>、小池 太郎<sup>1)</sup>、山田 泰史<sup>2)</sup>、  
佐竹 昌也<sup>2)</sup>、岡山 幸代<sup>2)</sup>、矢野 有紀<sup>2)</sup>、横溝 肇<sup>2)</sup>、塩澤 俊一<sup>2)</sup>、島川 武<sup>2)</sup>、  
勝部 隆男<sup>2)</sup>、成高 義彦<sup>2)</sup>  
1) 埼玉県済生会栗橋病院 外科 2) 東京女子医科大学東医療センター 外科

### W2-5 消化器癌症例における看取りの場からみた終末期緩和医療の現況と課題

○杉山 保幸  
岐阜市民病院

### W2-6 乳癌内線維芽細胞と癌浸潤・転移

○折茂 彰<sup>1)</sup>、伊藤 恭彦<sup>1)</sup>、目澤 義弘<sup>1)</sup>、Kaidiliavi Sulidan<sup>1,2)</sup>、Nadila Wali<sup>1)</sup>、  
竹田 省<sup>2)</sup>、奥村 康<sup>3)</sup>、竹田 和由<sup>4)</sup>、樋野 興夫<sup>1)</sup>、浜田 道昭<sup>5)</sup>、松村 優子<sup>1,2)</sup>  
1) 順天堂大学 病理・腫瘍学 2) 順天堂大学 産婦人科 3) 順天堂大学 アトピー疾患研究センター  
4) 順天堂大学 大学院医学研究科 研究基盤センター細胞機能研究室 5) 早稲田大学 理工学術院

ランチョンセミナー 2 12:00 ~ 13:00 共催: レナテック株式会社、株式会社 iLAC、株式会社 島津製作所

司会: 筆宝 義隆 千葉県がんセンター研究所 がん制御研究部

## 「血清中の微量元素によるがんリスク診断法の開発」

岡本 直幸  
株式会社レナテック分析研究センター

## 「未病社会に必要なプレジジョンメディスン」

佐藤 孝明  
株式会社島津製作所、筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センター

閉会の辞 13:10 当番世話人: 永瀬 浩喜 千葉県がんセンター研究所 所長

開場 13:30 ~ 14:00

千葉がんシンポジウム 14:00 ~ 17:00

## Chiba Cancer Center International Symposium “Cancer Genetic Research towards Clinical Application”

Speaker 1: “Targeting components of the TGF beta signaling pathway to optimize check point blockade”

Rosemary Akhurst, UCSF

Speaker 2: “The role of stem cells in tumor evolution from initiation to metastasis”

Allan Balmain, UCSF

Speaker 3: “Our trials aiming to develop novel combination cancer immunotherapy”

Koji Matsushima, Tokyo University of Science

Speaker 4: “Sequence specific external interference to the structure of living genome and epigenome”

Hiroki Nagase, Chiba Cancer Center Research Institute

Speaker 5: “Nuclear Mitochondrial Biogenesis as a Mechanism in Development of Cancer”

Keshav Singh, Alabama University

Chairman : Taka-aki Sato and Hiroki Nagase